



コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド Business Desktop

製品番号 : 312945-292

2003年9月

このガイドでは、コンピュータ セットアップの使用方法について説明します。このツールは、新しいハードウェアを取り付けたときにコンピュータのデフォルト設定を再構成および変更する場合や、メンテナンスを行う場合に使用します。

© 2003 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

HP、Hewlett Packard、およびHewlett-Packardロゴは、米国Hewlett-Packard Companyの米国およびその他の国における商標です。

CompaqおよびCompaqロゴは、米国Hewlett-Packard Development Company, L.P.の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、MS-DOS、Windows、およびWindows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他、本書に掲載されている会社名、製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、また本書の適用の結果生じた間接損害を含めいかなる損害についても、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、現状有姿のままで提供されるもので、商品性または特定目的への適合性に関する黙示の保証などを含むいかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品に対する保証は、当該製品に付属の限定的保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。

本書には、著作権によって保護された所有権に関する情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Hewlett-Packard Companyの書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他言語へ翻訳することはできません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

以下の記号は、本文中で安全上重要な注意事項を示します。



警告：その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがあるという警告事項を表します。



注意：その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こす恐れがあるという注意事項を表します。

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド
Business Desktop
改訂第1版 2003年9月
初版 2003年3月
製品番号 : 312945-292

日本ヒューレット・パッカード株式会社

目次

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ	1
コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティの起動	3
ファイル (File)	4
システム情報 (System Information)	4
バージョン情報 (About)	4
日付と時刻 (Set Time and Date)	4
ディスクケットに保存 (Save to Diskette)	4
システム構成の復元 (Restore from Diskette)	4
デフォルト値に設定して終了 (Set Defaults and Exit)	4
設定を保存せずに終了 (Ignore Changes and Exit)	4
設定を保存して終了 (Save Changes and Exit)	4
ストレージ (Storage)	5
デバイス構成 (Device Configuration)	5
ストレージ オプション (Storage Options)	7
IDE DPS セルフテスト (IDE DPS Self-Test)	8
コントローラ順序 (Controller Order)	9
起動順序 (Boot Order)	9
セキュリティ (Security)	9
セットアップ パスワード (Setup Password)	9
電源投入時パスワード (Power-On Password)	9
パスワード オプション (Password Options)	10
内蔵セキュリティ (Embedded Security)	10
スマート カバー (Smart Cover)	10
スマート センサ (Smart Sensor)	10
ドライブロック (DriveLock)	11
システム ID (System ID)	11
マスタ ブート レコード セキュリティ (Master Boot Record Security)	12
マスタ ブート レコードの保存 (Save Master Boot Record)	12
マスタ ブート レコードの復元 (Restore Master Boot Record)	12
デバイス セキュリティ (Device Security)	13
ネットワーク サービス ブート (Network Service Boot)	13

カスタム * (Advanced)	13
電源投入時オプション (Power-On Options)	13
BIOS Wakeup	15
オンボード デバイス (Onboard Devices)	15
PCI デバイス (PCI Devices)	16
バス オプション (Bus Options)	16
デバイス オプション (Device Options)	17
PCI VGA コンフィグレーション (PCI VGA Configuration)	19
構成の設定値の回復	20
方法1：フラッシュ ROM CMOSの保管/復元機能：電源スイッチ オーバーライドの使用	20
方法2：[ディスクットに保存] (Save to Diskette) および	
[システム構成の復元] (Restore from Diskette)	21

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティは、以下のような操作を行う場合に使用します。

- コンピュータの工場出荷時の設定の変更。
- コンピュータ (リアルタイム クロック) の日付 (Date) と時刻 (Time) の設定。
- システム構成 (プロセッサ、グラフィックス (ビデオ)、メモリ、オーディオ、記憶装置、通信ポート、入力装置など) の表示、設定の変更、または確認。
- 起動可能なデバイスの起動順序 (Boot Order) の変更。起動可能なデバイスとして、ハードディスク ドライブ、ディスクет ドライブ、オプティカル ドライブ、LS-120 ドライブなどがあります。
- IDE ハードディスク ドライブと SCSI ハードディスク ドライブの起動時の優先順位の設定。
- クイック ブート (QuickBoot) の有効化。クイック ブートでは、コンピュータをすばやく起動できますが、フル ブートで実行される診断テストの一部が省略されます。以下のように設定できます。
 - ☐ 常にクイック ブート (デフォルト)
 - ☐ 定期的にフル ブート (毎日～30日まで指定可)
 - ☐ 常にフル ブート

- POST (Power-On Self Test) メッセージ (POST Message) の有効/無効の選択による、メッセージの表示状態の変更。非表示モードでは、メモリ カウント、製品名、エラーでないその他のテキスト メッセージなど、ほとんどのPOSTメッセージは表示されません。POSTエラーが発生した場合には、選択した設定に関係なくエラー メッセージが表示されます。POST実行中に非表示モードから表示モードに切り替えるには、**[F1]～[F12]** キー以外の任意のキーを押してください。
- オーナーシップ タグ (Ownership Tag) の設定。オーナーシップ タグを設定しておくと、システムを起動または再起動するたびにコンピュータの所有者に関する情報が画面上に表示されます。
- 会社によって割り当てられたアセット タグ (Asset Tag) または資産ID番号の設定。
- システムの起動時だけでなく、再起動時の電源投入時パスワード入力画面の有効化。
- セットアップ パスワード (Setup Password) の設定。セットアップ パスワードは、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ、およびこのガイドで説明する設定にアクセスする場合に使用します。
- シリアル ポート、USBポート、パラレル ポート、オーディオ、内蔵NICなどの内蔵I/O機能の使用禁止/許可の設定。
- マスタ ブート レコード (MBR) セキュリティ (Master Boot Record Security) の有効/無効の設定。
- リムーバブル メディアからの起動 (Removable Media Boot) の有効/無効の設定。
- リムーバブル メディアへの書き込み (Removable Media Write) の禁止/許可の設定 (ハードウェアでサポートされている場合)。
- POSTで検出されて自動修復できなかったシステム構成のエラーの解決。
- リプリーク セットアップ機能の利用。コンピュータの設定情報をディスケットに保存し、その情報を使って複数のコンピュータを同じ設定にすることができます。
- 特定のIDEハードディスク ドライブのセルフテストの実行 (ドライブでサポートされている場合)。
- ドライブロック セキュリティ (DriveLock Security) の有効/無効の設定 (マルチベイ ドライブでサポートされている場合)。

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティの起動

コンピュータ セットアップは、コンピュータの電源を入れるか再起動することでのみアクセスできます。コンピュータ セットアップ ユーティリティを起動するには、以下の手順で操作します。

1. コンピュータの電源を入れるか、再起動します。Microsoft® Windows®をお使いの場合、[スタート]→[終了オプション] (または[シャットダウン]) →[コンピュータを再起動する] (または[再起動する]) の順に選択します。
2. モニタ ランプが緑色に点灯したら、すぐに[F10]キーを押します。




適切なタイミングで[F10]キーを押せなかったときは、コンピュータの電源をいったん切ってから入れなおして、もう一度[F10]キーを押してください。

3. 使用言語をリストから選択し、[Enter]キーを押します。
4. [コンピュータ セットアップ ユーティリティ]のメイン画面から4つのメニュー ([ファイル] (File)、[ストレージ] (Storage)、[セキュリティ] (Security)、[カスタム] (Advanced)) を選択できます。
5. 左右の矢印キーでメニューを選択し、上下の矢印キーで項目を選んで[Enter]キーを押します。コンピュータ セットアップ ユーティリティのメニューに戻るには、[Esc]キーを押します。
6. 変更した設定を有効にして保存するには、[ファイル]→[変更を保存して終了] (Save Changes and Exit) の順に選択します。
 - ☐ 変更した設定を破棄したい場合は、[変更を保存しないで終了] (Ignore Changes and Exit) を選択します。
 - ☐ 工場出荷時の設定値に戻す場合は、[デフォルト値に設定して終了] (Set Defaults and Exit) を選択します。




注意: CMOSの損傷を防ぐため、コンピュータ セットアップでの変更がROMに保存されている最中に、コンピュータの電源を切らないでください。[F10=Setup]画面の終了後にのみ、安全にコンピュータの電源を切ることができます。

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ

メニュー	項目	説明
ファイル (File)	システム情報 (System Information)	次の項目を表示します <ul style="list-style-type: none"> 製品名 (Product Name) プロセッサ タイプ/速度/ステッピング (Processor Type/Speed/Stepping) キャッシュ サイズ (Cache Size) (L1/L2) 取り付けられているメモリのサイズ/処理速度、チャンネルの数 (シングルまたはデュアル) (必要に応じて) 内蔵の有効なNIC用の内蔵MACアドレス (Integrated MAC) (必要に応じて) システムROM (System ROM) (システム ファミリの名前とバージョン) 本体シリアル番号 (Chassis Serial Number) アセット タグ (Asset Tracking Number)
	バージョン情報 (About)	著作権情報を表示します
	日付と時刻 (Set Time and Date)	システムの時刻と日付を設定します
	ディスクットに保存 (Save to Diskette)	フォーマットされた1.44 MBディスクットのCPQsetup.txt ファイルに、CMOSを含めたコンピュータの設定情報を保存します。DiskOnKeyの保存/復元がサポートされています
	システム構成の復元 (Restore from Diskette)	ディスクットに保存されているシステム構成を復元します。DiskOnKeyの保存/復元がサポートされています
	デフォルト値に設定して終了 (Set Defaults and Exit)	工場出荷時の設定値に戻します。すべてのパスワード設定も消去されます
	設定を保存せずに終了 (Ignore Changes and Exit)	変更した設定値を破棄し、コンピュータ セットアップ ユーティリティを終了します
	設定を保存して終了 (Save Changes and Exit)	変更した設定値を保存し、コンピュータ セットアップ ユーティリティを終了します
 コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。		

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明												
ストレージ (Storage)	デバイス構成 (Device Configuration)	<p>取り付けられているストレージ デバイスのうち、BIOS で制御されるものをすべて表示します</p> <p> SCSIストレージ デバイスは、コンピュータ セットアップでは表示されません</p> <p>デバイスを選択すると、そのデバイスに関する詳細情報 およびオプションが表示されます。次のような項目が表示されます</p> <p>ディスクett タイプ (Diskette Type)</p> <p>ディスクett ドライブで使用可能な最大容量のメディアのタイプを示します</p> <p>レガシー ディスクett ドライブ</p> <p>オプションには、3.5 インチ 1.44 MB、および 5.25 インチ 1.2 MBがあります</p> <p>ドライブ エミュレーション (Drive Emulation)</p> <p>特定のストレージ デバイスのドライブ エミュレーション タイプを選択します (たとえば、Zipドライブは、ディスクett エミュレーションを選択することで起動可能になります)</p> <table><tr><th>ドライブのタイプ</th><th>エミュレーション オプション</th></tr><tr><td>ATAPI Zipドライブ (ATAPI Zip drive)</td><td>なし (None) (その他の各種ドライブとして処理) ディスクett (Diskette) (ディスクett ドライブとして処理)</td></tr><tr><td>IDEハードディスク (IDE Hard Disk)</td><td>なし (その他の各種ドライブとして処理) ディスク (Disk) (ハードディスク ドライブとして処理)</td></tr><tr><td>レガシー ディスクett (Legacy Diskette)</td><td>なし</td></tr><tr><td>IDE CD-ROM</td><td>なし</td></tr><tr><td>ATAPI LS-120</td><td>なし (その他の各種ドライブとして処理) ディスクett (ディスクett ドライブとして処理)</td></tr></table>	ドライブのタイプ	エミュレーション オプション	ATAPI Zipドライブ (ATAPI Zip drive)	なし (None) (その他の各種ドライブとして処理) ディスクett (Diskette) (ディスクett ドライブとして処理)	IDEハードディスク (IDE Hard Disk)	なし (その他の各種ドライブとして処理) ディスク (Disk) (ハードディスク ドライブとして処理)	レガシー ディスクett (Legacy Diskette)	なし	IDE CD-ROM	なし	ATAPI LS-120	なし (その他の各種ドライブとして処理) ディスクett (ディスクett ドライブとして処理)
	ドライブのタイプ	エミュレーション オプション												
	ATAPI Zipドライブ (ATAPI Zip drive)	なし (None) (その他の各種ドライブとして処理) ディスクett (Diskette) (ディスクett ドライブとして処理)												
	IDEハードディスク (IDE Hard Disk)	なし (その他の各種ドライブとして処理) ディスク (Disk) (ハードディスク ドライブとして処理)												
レガシー ディスクett (Legacy Diskette)	なし													
IDE CD-ROM	なし													
ATAPI LS-120	なし (その他の各種ドライブとして処理) ディスクett (ディスクett ドライブとして処理)													
<p> コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>														





コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage) (続き)	デバイス構成 (Device Configuration) (続き)	<p>ドライブのタイプ エミュレーション オプション (続き) (続き)</p> <p>転送モード (Transfer Mode) (IDEデバイスのみ) アクティブなデータ転送モードを指定します。オプションには (デバイスの機能により)、PIO 0、Max PIO、Enhanced DMA、Ultra DMA 0、および Max UDMA があります</p> <p>変換モード (Translation Mode) (IDEディスクのみ) デバイスで使用する変換モードを選択します。これにより BIOS は、他のシステム上のパーティション分割およびフォーマットされたディスクにアクセスできます。これは、旧バージョンの UNIX (SCO UNIX バージョン 3.2 など) のユーザにとって必要な場合があります。オプションには、ビットシフト (Bit-Shift)、LBA 支援 (LBA Assisted)、ユーザ (User)、および「なし」(None) があります</p> <p> 注意: 通常は、BIOS によって自動的に選択された変換モードは変更しないでください。選択された変換モードが、ディスクをパーティション分割およびフォーマットしたときにアクティブであった変換モードと互換性がないと、ディスク上のデータにアクセスできなくなります</p> <p>変換パラメータ (Translation Parameter) (IDEディスクのみ) パラメータ (論理シリンダ (Logical Cylinders)、ヘッド (Heads)、およびトラック当たりのセクタ数 (Sectors Per Track)) を指定できます。BIOS はこれを使用して (オペレーティング システムやアプリケーションからの) ディスク I/O 要求を、ハードディスク ドライブで受け入れ可能な様式に変換します。論理シリンダは 1024 を超えることはできません。ヘッド数は 256 を超えることはできません。トラック当たりのセクタ数は 63 を超えることはできません。これらのフィールドは、ドライブの変換モードが「ユーザ」に設定されているときにのみ、表示および変更できます</p> <p>Multisector Transfers (マルチセクタ転送) (IDEディスクのみ) マルチセクタの PIO 操作ごとに転送されるセクタ数を指定します。オプションには (デバイスの機能により)、無効 (Disabled)、8、および 16 があります</p>





コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。




コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage) (続き)	ストレージ オプション (Storage Options)	<p>リムーバブル メディア起動 (Removable Media Boot)</p> <p>リムーバブル メディアからシステムを起動する機能の有効 (Enable) / 無効 (Disable) を設定します</p> <p>リムーバブル メディア書き込み (Removable Media Write)</p> <p>リムーバブル メディアにデータを書き込む機能の有効 / 無効を設定します</p> <p> この機能は、レガシー ディスケット、IDE LS-120 スーパーディスク、およびIDE PDオプティカルドライブにのみ適用されます</p> <p> リムーバブル メディア起動の変更を行った後で、コンピュータは再起動しますが、その後、手動でコンピュータの電源を切ってから電源を入れてください</p> <p>プライマリIDEコントローラ (Primary IDE Controller)</p> <p>プライマリIDEコントローラを有効 / 無効に設定します。この機能は一部のモデルでのみサポートされます</p> <p>セカンダリIDEコントローラ (Secondary IDE Controller)</p> <p>セカンダリIDEコントローラを有効 / 無効に設定します。この機能は一部のモデルでのみサポートされます</p> <p>ディスクет MBR検証 (Diskette MBR Validation)</p> <p>ディスクетのマス タ ブート レコード (MBR) の厳密な検証を有効 / 無効に設定します。この機能は一部のモデルでのみサポートされます</p> <p> ディスクет MBR検証を有効にすると、適正であることが分かっている起動可能ディスクетのイメージを起動できなくなる場合は、この項目を無効にします</p>
<p> コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>		




コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage) (続き)	ストレージ オプション (Storage Options) (続き)	<p>SATA Configuration (シリアルATA構成)</p> <p>SATAコントローラおよびデバイスをオペレーティングシステムからアクセスする方法を選択できます</p> <p>デフォルトのオプションは[Add as a Separate Controller] (別のコントローラとして追加) です。このモードでは、最大4つのPATAデバイスと2つのSATAデバイスにアクセスできます。SATAおよびPATAのコントローラは、個別の2つのIDEコントローラとして表示されます。このオプションは、Microsoft Windows 2000およびMicrosoft Windows XPで使用します</p> <ul style="list-style-type: none"> SATA 0は[SATA Primary Device 0] (SATAプライマリデバイス0) として表示されます SATA 1 (デバイスがある場合) は[SATA Secondary Device 0] (SATAセカンダリ デバイス0) として表示されます <p>もう一方のオプションは[Replace Primary IDE Controller] (プライマリIDEコントローラの交換) です。このモードでは、最大2つのPATAデバイスと2つのSATAデバイスにアクセスできます。SATAおよびPATAのコントローラは、1つに組み合わせられたIDE コントローラとして表示されます。このオプションは、Microsoft Windows 98以前のオペレーティング システムで使用します</p> <ul style="list-style-type: none"> SATA 0は[PATA Primary Device 0] (PATAプライマリデバイス0) に置き換えられます SATA 1は[PATA Primary Device 1] (PATAプライマリデバイス1) に置き換えられます <p>BIOS IDE DMA Transfers (BIOS IDE DMA転送)</p> <p>BIOSのディスクI/O要求の処理方法を調整できます。[有効] (Enable) が選択されているときは、BIOSはすべてのI/O 要求をDMA データ転送で処理します。[無効] (Disable) が選択されているときは、BIOSはすべてのI/O 要求をPIOデータ転送で処理します</p>
	IDE DPSセルフテスト (IDE DPS Self-Test)	<p>DPS (Drive Protection System) セルフテスト 機能をもつIDE ハード ディスクドライブのセルフテストを実行します</p> <p> この項目は、1台以上のIDE DPSセルフテスト機能を持つハードディスクドライブがシステムに接続されている場合にのみ表示されます</p>
<p> コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>		



コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage) (続き)	コントローラ順序 (Controller Order) (一部のモデルでのみサポート)	搭載されているハードディスク ドライブのコントローラの順序を指定します。該当するデバイスが存在する場合、この順番の最初に指定されているハードディスク ドライブ コントローラが、起動順序 (Boot Order) で最優先され、Cドライブとして認識されます
	起動順序 (Boot Order)	<p>接続された周辺装置 (ディスク ドライブ、ハードディスク ドライブ、オプティカルドライブ、ネットワーク インタフェース カードなど) に起動可能なオペレーティング システムのイメージがあるかどうかをチェックする順序を指定します。一覧上の各デバイスは、起動可能オペレーティング システムのソースとして個別にチェック対象から除外したり、チェック対象に含めたりできます</p> <p> MS-DOSのドライブ名の割り当ては、MS-DOS以外のオペレーティング システムが起動された後は、適用されない場合があります</p> <p>一時的に優先される起動順序へのショートカット</p> <p>起動順序で指定したデフォルトのデバイス以外のデバイスから一度だけ起動するには、コンピュータを再起動し、モニターランプが緑色に点灯している間に[F9]キーを押します。POSTが完了すると、起動可能デバイスの一覧が表示されます。矢印キーを使用して目的の起動デバイスを選択し、[Enter]キーを押すと、デフォルト以外の選択したデバイスから、コンピュータが一度だけ起動されます</p>
セキュリティ (Security)	セットアップ パスワード (Setup Password)	<p>セットアップ (管理者) パスワードを設定して有効にします</p> <p> セットアップ パスワードを設定すると、コンピュータ セットアップ ユーティリティの設定を変更したり、ROMをフラッシュしたり、Windows 環境で特定のプラグ アンド プレイ設定を変更したりする場合にセットアップ パスワードが必要になります</p> <p>詳しくは、『トラブルシューティング ガイド』を参照してください</p>
	電源投入時パスワード (Power-On Password)	<p>電源投入時パスワードを設定して有効にします</p> <p>詳しくは、『トラブルシューティング ガイド』を参照してください</p>
<p> コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>		

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)


メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security) (続き)	パスワード オプション (Password Options) (電源投入時パスワードが設定されている場合にのみ表示されます)	<p>ウォーム ブート ([Ctrl]+[Alt]+[Delete]) にパスワードが必要かどうかを指定します</p> <p>詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p>
	内蔵セキュリティ (Embedded Security)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> セットアップ パスワード (Setup Password) 内蔵セキュリティ デバイスの有効 (Enable) / 無効 (Disable) <p>一部のモデルでのみサポートされます。詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p>
	スマート カバー (Smart Cover)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> スマート カバー ロック (Smart Cover Lock) のロック (Lock) / アンロック (Unlock) の設定 <p> [ユーザに通知] (Notify User) を設定すると、カバーが取り外されたことをセンサが検知したときにユーザに通知されます。セットアップ パスワードは、カバーが取り外されたことをセンサが検知した場合、コンピュータを起動する際にセットアップ パスワードの入力を要求します</p> <p>一部のモデルでのみサポートされます。詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p>
	スマート センサ (Smart Sensor)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> スマート センサ (Smart Sensor) の有効/無効の設定 <p> [ユーザに通知]を設定すると、カバーが取り外されたことをセンサが検知したときにユーザに通知されます。セットアップ パスワードは、カバーが取り外されたことをセンサが検知した場合、コンピュータを起動する際にセットアップ パスワードの入力を要求します</p> <p>一部のモデルでのみサポートされます。詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p>
<p> コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>		

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)


メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security) (続き)	ドライブロック (DriveLock)	<p>マルチベイ ハードディスク ドライブにマスタ パスワードまたはユーザ パスワードを割り当てたり、パスワードを変更したりします (SCSIハードディスク ドライブではサポートされません)。この機能が有効の場合は、POST実行中にどちらかのDriveLockパスワードを入力するよう求められます。どちらのパスワードも正常に入力されなかった場合は、次のコールド ブート シーケンスの間にどちらかのパスワードが入力されるまで、ハードディスク ドライブにはアクセスできません</p> <p> この項目は、DriveLock機能をサポートする1台以上のマルチベイ ハードディスク ドライブがシステムに接続されている場合にのみ表示されます</p> <p>詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p>
	システムID (System ID)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> • アセット タグ (Asset Tag。18バイトのID) およびオーナーシップ タグ (Ownership Tag。POST実行中に表示される80バイトのID) の入力 詳しくは、『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください • 本体シリアル番号 (Chassis Serial Number) またはUUID (Universal Unique Identifier) の入力 UUIDは現在の本体シリアル番号が無効の場合にのみ更新できます (通常これらの識別 (ID) 番号は工場出荷時に設定され、そのシステムを特定するために使用されます) • キーボード (Keyboard Locale) の設定 英語用やドイツ語用などをシステムIDエントリに対して設定します
<p> コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>		

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)




メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security) (続き)	マスタ ブート レコード セキュリティ (Master Boot Record Security)	<p>マスタ ブート レコード (MBR) セキュリティを有効 (Enable) / 無効 (Disable) に設定します</p> <p>有効に設定すると、BIOSは、現在の起動可能ディスクの MBR への書き込み要求をすべて拒否します。コンピュータの電源を入れるか再起動するたびに、BIOSは現在の起動可能ディスクの MBR と前回保存した MBR とを比較します。変更が検出された場合、現在の起動可能ディスクの MBR を保存するか、前回保存した MBR を復元するか、または MBR セキュリティを無効にすることができます。セットアップ パスワードが設定されている場合は、セットアップ パスワードを入力する必要があります</p> <p> 現在の起動可能ディスクのフォーマットやパーティションを意図的に変更する際は、MBR セキュリティを無効に設定します。一部のディスク ユーティリティ (FDISK や FORMAT など) は MBR を更新しようとします</p> <p>MBR セキュリティが有効に設定されたまま BIOS によってディスク アクセスの処理が行われると、MBR への書き込み要求は拒否され、ユーティリティはエラーを表示します。また MBR セキュリティが有効に設定されたままオペレーティングシステムによってディスク アクセスの処理が行われると、次の再起動時に BIOS によって MBR の変更が検出され、MBR セキュリティの警告メッセージが表示されます</p>
	マスタ ブート レコードの 保存 (Save Master Boot Record)	<p>現在の起動可能ディスクのマスタ ブート レコードのバックアップ コピーを保存します</p> <p> MBR セキュリティが有効の場合にのみ表示されます</p>
	マスタ ブート レコードの 復元 (Restore Master Boot Record)	<p>マスタ ブート レコードのバックアップを現在の起動可能ディスクに復元します</p> <p> 次の条件がすべて満たされている場合にのみ表示されます</p> <ul style="list-style-type: none"> • MBR セキュリティが有効に設定されている • 以前に MBR のバックアップ コピーが保存されている • 現在の起動可能ディスクが、MBR のバックアップ コピーを保存したときのディスクと同じである <p> 注意：通常は、ディスク ユーティリティやオペレーティングシステムから MBR が変更された後に、以前保存しておいた MBR のバックアップを復元すると、ディスク上のデータにアクセスできなくなる可能性があります。現在の起動可能ディスクの MBR が壊れているかウイルスに感染していることが確実な場合にのみ、バックアップ コピーを復元してください</p>

 コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)


メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security) (続き)	デバイス セキュリティ (Device Security)	シリアル ポート (Serial Port) A と B、パラレル ポート (Parallel Port)、前面のUSBポート (Front USB Port、一部のモデルのみ)、すべてのUSBポート (All USB Ports)、システムのオーディオ セキュリティ (Audio Security)、モデルによってはネットワーク コントローラ (Network Controller)、マルチベイ デバイス (Multibay Devices)、およびSCSIコントローラ (SCSI Controller) のデバイス有効 (Enable) / デバイス無効 (Disable) の設定
	ネットワーク サービス ブート (Network Service Boot)	ネットワーク サーバにインストールされたオペレーティング システムからコンピュータを起動する機能の有効 (Enable) / 無効 (Disable) の設定 (NIC モデルのみで使用でき、ネットワーク コントローラがPCIバス上に存在するか、システム ボードに組み込まれている必要があります)
カスタム* (Advanced) *上級ユーザのみ	電源投入時オプション (Power-On Options)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> POSTモード (POST Mode) の設定: クイック ブート (QuickBoot)、フル ブート (FullBoot)、または1~30日毎にフルブート (FullBoot Every 1-30 Days) POSTメッセージ (POST Messages) の有効 (Enable) / 無効 (Disable) [F9]プロンプト (F9 Prompt) の有効/無効 この機能を有効に設定すると、POST実行中に [F9=Boot Menu] と表示されます。この機能を無効に設定してテキストが非表示になっても、[F9]キーを押すと [Shortcut Boot [Order] Menu] 画面が表示されます。詳しくは、[ストレージ] (Storage) → [起動順序] (Boot Order) の順に選択してください [F10]プロンプト (F10 Prompt) の有効/無効 この機能を有効に設定すると、POST実行中に [F10=Setup] と表示されます。この機能を無効に設定してテキストが非表示になっても、[F10]キーを押すと [Setup]画面が表示されます [F12]プロンプト (F12 Prompt) の有効/無効 この機能を有効に設定すると、POST実行中に [F12=Network Service Boot] と表示されます。この機能を無効に設定してテキストが非表示になっても、[F12]キーを押すとネットワークからのブートがシステムに強制されます
 コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。		

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)


メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き)	電源投入時オプション (Power-On Options) (続き)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> オプションROMプロンプト (Option ROM Prompt) の有効 (Enable) / 無効 (Disable) この機能を有効に設定すると、オプションROMをロードする前に画面にメッセージが表示されます (この機能は一部のモデルでのみサポートされます) ファン アイドル モード (Fan idle mode) : アイドル状態のときのファンの回転速度を1 (デフォルト)、2、3、または4 (最速) に設定できます。速度が上がるほどアイドル状態のときのファンによる冷却効果も上がりますが、音が大きくなります (この機能は一部のモデルでのみサポートされます) <p> この機能では、ファンの最低速度を上げることができます。最低速度を上げてても最高速度は影響を受けません。また、最低値 (1) より遅く設定することはできません</p> <ul style="list-style-type: none"> リモート ウェイクアップ ブート ソース (Remote Wakeup Boot Source) のリモート サーバ (Remote Server) / ローカル ハードディスク ドライブ (Local Hard Drive) 電源の切断後 (After Power Loss) のオン (On) / オフ (Off) 電源切断後、コンピュータ本体の電源スイッチではなく、スイッチ付き電源タップのスイッチなどを使用してコンピュータの電源を入れたい場合は、このオプションをオンに設定します <p> 電源タップのスイッチを使ってコンピュータの電源を切る場合は、サスペンド/スリープ機能やリモート マネジメント機能を使用できません</p> <ul style="list-style-type: none"> POST遅延時間 (秒単位) (POST Delay (in seconds)) の有効/無効 この機能を有効に設定すると、ユーザが指定した遅延時間がPOSTプロセスに追加されます。この遅延時間は、POSTが完了した時点でブートの準備ができていないほどPCIカード上のハードディスクの回転が遅い場合に必要となります。また、POST遅延時間を設定すると、コンピュータ (F10) セットアップを開くために[F10]キーを選択できる時間が長くなります
*上級ユーザのみ		
 コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。		

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き)	電源投入時オプション (Power-On Options) (続き)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> I/O APICモード (I/O APIC Mode) の有効 (Enable) / 無効 (Disable) この機能を有効に設定すると、Microsoft Windowsオペレーティング システムの動作が最適化されます。Microsoft 以外の一部のオペレーティング システムを正常に動作させるためには、この機能を無効に設定する必要があります メモリの先頭のACPI/USBバッファ (ACPI/USB Buffer @ Top of Memory) の有効/無効 この機能を有効に設定すると、USBメモリ バッファがメモリの先頭に配置されます。この機能の利点は、1 MB 未満の一定量のメモリがオプションROMによって解放されて使用できる点です。不利な点は、USBバッファがメモリの先頭にありシステムのRAMが64 MB以下の場合、一般的なメモリ マネージャであるHIMEM.SYSが正常に動作しない点です ホットプラグ対応マルチベイ用ディスクレットドライブ (Hot-Pluggable MB Floppy) の有効/無効 この機能を有効に設定すると、Windows 2000またはWindows XPを実行しているシステムに対してマルチベイ用ディスクレットドライブのホットプラグが可能になります (この機能は一部のモデルでのみサポートされます)
	BIOS Wakeup	指定した時間にコンピュータの電源がオンになるように設定できます (この機能は一部のモデルでのみサポートされます)
	オンボード デバイス (Onboard Devices)	オンボード システム デバイス (ディスクレット コントローラ (Diskette Controller)、シリアル ポート (Serial Port)、パラレル ポート (Parallel Port) など) のリソースを設定したり無効に設定したりします

 コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き) * 上級ユーザのみ	PCIデバイス (PCI Devices)	<ul style="list-style-type: none"> インストールされているPCIデバイスの一覧とIRQの設定を表示します 各デバイスのIRQ 設定を変更したり、デバイスを無効 (Disable) に設定したりできます これらの設定は、ACPI対応のオペレーティング システムには対応していません
	バス オプション (Bus Options)	一部のモデルで、次の項目の有効 (Enable) / 無効を設定します <ul style="list-style-type: none"> PCIバス マスタ (PCI Bus Mastering) PCIデバイスがPCIバスを制御します PCI SERR#生成 (PCI SERR# Generation) PCI VGAパレット スヌーピング (PCI VGA Palette Snooping) PCIコンフィギュレーション スペースにVGAパレット スヌーピング ビットを設定します。2つ以上のグラフィックス コントローラがインストールされている場合にのみ必要です ECCサポート (ECC Support) (一部のモデルのみ) ECC対応メモリでのハードウェア ベースのエラーを訂正します
 コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。		



コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き) *上級ユーザのみ	デバイス オプション (Device Options)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> プリンタ モード (Printer Mode) の双方向 (Bi-directional)、EPP + ECP (EPP & ECP)、出力専用 (Output Only) 電源投入時Num Lock状態 (Num Lock state at Power-On) のオン (On) /オフ (Off) S5 Wake on LANの有効 (Enable) /無効 (Disable) <ul style="list-style-type: none"> オフ状態 (S5) のときにWake on LANを無効にするには、左右の矢印キーを使用して[カスタム] (Advanced) →[デバイス オプション]メニューの順に選択し、S5 Wake on LAN機能を無効に設定します。この設定では、S5のときのコンピュータの消費電力を最小にすることができます。サスペンドやハイバネーションからのWake on LANの実行には影響しませんが、ネットワーク経由でS5から復帰することはできません。コンピュータの電源がオンの時には、ネットワーク接続の操作には影響しません ネットワーク接続が必要でない場合は、ネットワーク コントローラ (NIC) を完全に無効にするために左右の矢印キーを使用して[セキュリティ] (Security) →[デバイス セキュリティ] (Device Security) メニューの順に選択します。ネットワーク コントローラのオプションを [Device Hidden] に設定します。これで、ネットワーク コントローラがオペレーティング システムから使用できなくなり、S5のときのコンピュータの消費電力を抑えることができます Hyper-threadingの有効/無効 プロセッサ キャッシュ (Processor Cache) の有効/無効




コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き)	デバイス オプション (Device Options) (続き)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> ACPI S3のサポート (ACPI S3 Support) の有効 (Enable) / 無効 (Disable) S3は、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) のスリープ状態であり、一部のアドインハードウェア オプションではサポートされない場合があります  ACPI S3は一部のモデルでのみサポートされます。ACPI S3サポート オプションが表示されない場合は、その他のACPI S3オプション (ACPI S3ビデオ再POST、ACPI S3ハードディスクのリセット、およびACPI S3 PS2マウス ウェークアップ) は使用できません ACPI S3ビデオ再POST (ACPI S3 Video REPOST) の有効/無効 S3スリープ状態からの復帰時にビデオ オプションROMを元に戻します (一部のモデルのみ) ACPI S3ハードディスクのリセット (ACPI S3 Hard Disk Reset) の有効/無効 S3スリープ状態からの復帰後にハードディスク ドライブをリセットします ACPI S3 PS2マウス ウェーク アップ (ACPI S3 PS2 Mouse Wake Up) の有効/無効 マウスを使用してS3スリープ状態から復帰できるように設定します (一部のモデルのみ) 各スリープ状態時のLEDの点滅速度 (Unique Sleep State Blink Rates) ランプの点滅パターンによってスリープ状態が識別できる機能の有効/無効を設定します フレーム バッファ サイズ (Frame Buffer Size) (オプションはプラットフォームによって異なります) フレーム バッファ サイズ ウィンドウのサイズを変更します
*上級ユーザのみ		
	コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。	

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き) *上級ユーザのみ	デバイス オプション (Device Options) (続き)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> AGPビデオ フレーム バッファ サイズ (AGP Aperture size) (オプションはプラットフォームによって異なります) AGPビデオ フレーム バッファ サイズ ウィンドウのサイズを変更します モニタ トラッキング (Monitor Tracking) の有効 (Enable) /無効 (Disable) モニタのアセット情報をROMに保存します スペクトラム拡散 (Spread Spectrum) の有効/無効 システム クロックをスペクトラム拡散することができます (この機能は一部のモデルでのみサポートされます) NIC PXEオプションROMのダウンロード (NIC PXE Option ROM Download) の有効/無効 BIOSに含まれている内蔵NICオプションROMにより、コンピュータの起動時にネットワーク経由でPXEサーバに接続できます。この機能は通常、共通イメージをハードディスク ドライブにダウンロードするときに使用します。NIC オプションROM はDOS Compatibility Hole (DCH) 領域と呼ばれる1 MB未満のメモリ領域に格納されます。メモリ領域には制限があります。この[F10]オプションを使用して内蔵NICオプションROMのダウンロードを無効に設定できるため、追加のPCIカード用にオプションROM領域が必要な場合、提供するDCH領域を増やすことができます。デフォルトではNICオプションROMが有効に設定されています
	PCI VGAコンフィグレーション (PCI VGA Configuration)	<p>PCIビデオ アダプタがシステムにインストールされている場合にのみ表示されます。VGAコントローラのブートまたはプライマリVGAコントローラの設定を行います</p>
 コンピュータ セットアップ ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。		

構成の設定値の回復

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティで設定した構成の設定値は、2つの方法で回復できます。

方法1：フラッシュ ROM CMOSの保管/復元機能： 電源スイッチ オーバーライドの使用

[F10] キーを押して起動されるコンピュータ セットアップのCMOS構成の設定値は、非揮発性RAM (NVRAM) に格納されます。

コンピュータを起動するたびに、システムROMによってNVRAMのコピー (CMOS、電源投入時パスワード、およびその他のシステム変数を含む) がフラッシュ ROMに保存されます。システムが不安定になったときは、「電源ボタン オーバーライド」機能を使用して、最後に保存した正常なNVRAMのコピーを復元できます。以下の手順に従って、NVRAMを復元します。

1. コンピュータの電源が入っていない状態で、電源ボタンを押して離します。
2. 電源ボタンを押した直後 (POST実行中) に電源ボタンを押し続け (約4秒間)、コンピュータの電源を切ります。

次にコンピュータを起動すると、ROMによって「電源ボタン オーバーライド」イベントが検出され、NVRAMのバックアップ コピーが自動修復されます。



この機能があるため、電源を投入した直後、POSTの実行中に電源ボタンを使用してコンピュータの電源を切断することはできません。また、電源ボタンを押してコンピュータの電源を切断するまでは、ビデオ ディスプレイを有効にしておく必要があります。



注意: POSTの実行中に電源コードを抜くと、スプラッシュ スクリーン (POSTの実行中に表示されるロゴ画面) が正しく表示されなくなることがあります。スプラッシュ スクリーンを復元するには、ROMをフラッシュする必要があります。ただし、スプラッシュ スクリーンが正しく表示されない場合でも、コンピュータは正常に動作します。

方法2：[ディスクットに保存] (Save to Diskette) および [システム構成の復元] (Restore from Diskette)

この方法で復元する場合、[システム構成の復元]を実行する前に、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティの[ディスクットに保存]コマンドを実行する必要があります。コンピュータ セットアップ オプションの表にある、[4ページの「ディスクットに保存 \(Save to Diskette\)」](#)を参照してください。



コンピュータの構成を変更したら、その構成をディスクットに保存し、将来使用できるようにディスクットを保管しておくことをお勧めします。

構成を復元するには、構成を保存したディスクットをディスクット ドライブに挿入し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティの[システム構成の復元]コマンドを実行します。コンピュータ セットアップ オプションの表にある、[4ページの「システム構成の復元 \(Restore from Diskette\)」](#)を参照してください。